

## 【タイ】新首相の施政方針演説と憲法改正の動き

海外立法情報課・大友 有

\* 2011年8月5日、先の下院議員選挙において下院第一党となったタイ貢献党(Pheu Thai Party)ヨンユット党首から推薦を受けた同党比例代表候補者名簿一位のインラック・シナワット氏が下院において第28代首相に選出され、タイで初の女性首相が誕生した。2006年のクーデター以降、国外逃亡中の兄、タクシン元首相の操り人形と揶揄されるインラック首相の施政方針演説の内容と演説で示された憲法改正方針の狙い、タクシン派と反タクシン派の対立について解説する。

### インラック首相の施政方針演説

2011年8月23日、インラック・シナワット新首相は、議会において施政方針演説を行った。施政方針演説では、4年間の任期中に実施すべき政策のほか、16項目にわたる緊急優先課題を掲げた。そこには、①国民の和解と民主主義の再建、②「国家的課題」としての麻薬問題の撲滅、③腐敗・不正の防止、④統合的な水管理の推進と灌漑事業、⑤不穏な情勢が続く南部タイ国境地域における住民の生命と財産の安全確保、⑥近隣諸国との協力関係の強化、⑦インフレと原油価格問題の解決、⑧最低賃金の引上げ等による生活の質の向上、⑨法人税の減税、⑩国民による投資促進、⑪農産物価格の引上げ、⑫観光収入の増加促進、⑬コミュニティーにおける特産品・工芸品の生産促進、⑭健康保険制度の発展、⑮学校へのタブレット型パソコンの配布、⑯国民参加による政治改革が挙げられている。そのなかで、注目されるのが⑯（国民参加による政治改革）のなかで触れられている、憲法起草議会の設置と憲法改正である。

### 1997年憲法と2007年憲法

現行の2007年憲法は、2006年9月に発生したクーデターにより1997年憲法が廃止された後、暫定憲法を経て制定されたものである。インラック首相は、2007年憲法について、クーデターを首謀した軍部主導の暫定政権により制定されたものであり、民主的な手続を経て制定された憲法ではないと批判し、クーデターにより廃止された1997年憲法の内容に沿って改正すべきだと主張している。

現行の2007年憲法が、1932年の最初の憲法の公布以降、暫定、恒久を含め、18番目の憲法であることからみてもわかるとおり、タイにおける憲法改正は、クーデターの発生に伴い、頻繁に行われてきた。インラック政権がその精神に立ち戻りたいとする1997年憲法は、1992年5月の民主化運動以降高まった民主化への要求から、恒久憲法を制定しようと起草されたものであった。その起草作業が各県の代表と法律・政治等の有識者により構成された憲法起草議会において行われたことから、公布当初は、タイ憲法史上もっとも民主的な憲法と評された。腐敗の追放、人権保護、政治改革を

柱とする 1997 年憲法であったが、政治の安定を実現するため、下院に大規模政党に有利な小選挙区制を導入したため、その後 1997 年憲法下で実施された選挙においてタクシン元首相率いるタイ愛国党の圧倒的勝利を導く要因ともなった。

憲法改正の手續についてソムサク下院議長は、憲法草案を作成するための憲法起草議会を設置し、草案の採択については最終的に国民投票を実施するとし、まず、憲法改正手續を定める第 291 条を改正することになるだろうと述べている。

これに対し、野党民主党は、憲法改正の本当の狙いは、クーデター後の暫定憲法のもとで実施された暫定政府の措置を正当化する第 309 条を無効とし、暫定政権下で下されたタクシン元首相の有罪判決を覆し、同氏を帰国させることにあると批判し、対決姿勢を強めている。

### タクシン元首相との関係と反タクシン派との対立

インラック首相の兄、タクシン元首相は、選挙運動中には妹のインラック氏を「わたしのクローン」と呼び国外から選挙運動に協力していたが、政権発足後は、政権への口出しはしないと公言している。しかし、タイ貢献党と他 4 党との連立内閣であるインラック内閣の顔ぶれはタクシン元首相とその家族と深い関係をもつ人物が多く、「タクシン政権の再来」との批判もみられる。

一方、タクシン派と反タクシン派の対立構造は続いている。2011 年 8 月 22 日、タクシン元首相が来日したが、それに先立ち、インラック内閣のスラポン外相が日本政府に対し、同氏への査証の交付を要求したことがわかった。この外相の行為について、首相による施政方針演説以前に大臣が職務を遂行できるのは、国家として重大な緊急事態の場合に限ると規定する憲法第 176 条に違反するとして、野党民主党議員らがスラポン外相の罷免要求手續を開始した。また、放送通信事業の許認可権を持つ放送通信委員が上院により選出される際、11 人の委員のうち半数以上の 6 人を軍人が独占したことから、反タクシン派が多い上院において、委員選出に不正があったとしてタクシン派が反発を示すなど、対立が収束する気配はない。

今後、憲法改正の議論とともに国民の和解が実現するか否かが注目される。

参考文献(インターネット情報はすべて 2011 年 9 月 16 日現在である。)

- ・ คำแถลงนโยบายของคณะรัฐมนตรี (施政方針演説)タイ政府公式サイト  
<<http://spm.thaigov.go.th/multimedia/warapornc/policy/Policy-Yingluck28.pdf>>  
英語版は<<http://spm.thaigov.go.th/multimedia/vana/Policy-Yingluck-PM.pdf>>で入手可能。
- ・ “Ploy to bring back Thaksin”, *The Nation*, 2011.8.17.  
<<http://www.nationmultimedia.com/2011/08/17/national/Ploy-to-bring-back-Thaksin-30162971.html>>
- ・ Piyanart Srivalo, “Cabinet line-up to show Thaksin’s resolve”, *The Nation*, 2011.8.4.  
<<http://www.nationmultimedia.com/2011/08/04/national/Cabinet-line-up-to-show-Thaksins-resolve-30161892.html>>